

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大阪発達総合療育センター ゆうなぎ園		
○保護者評価実施期間	令和7年1月8日		～ 令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和7年1月8日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月8日		～ 令和7年2月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 28
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士として専門性のある助言を行っている	基本は個別担当者が実施できるよう調整を行っている。 訪問準備では職員間で相談、助言を行いながら実施している。	学校・園の状況に合わせより具体的助言や相談対応が行えるようにする
2	児童発達支援と兼務の為、発達の様々な角度からお子さんを理解し、訪問支援が行える。	お子さんのコミュニケーションの発達などを理解していただきやすいよう、事前に見て分かりやすい資料などを作成持参している。	近い将来的な集団活動の中で予想される困りごとや課題などもお伝えしたうえで現在の課題を共有していけるように工夫していく
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容が職員の経験年数によって多少のばらつきがでる	お子さんを良く知る個別担当者が訪問を担当するため、職員間での支援内容の振り返りや見直しが不十分となる	様々な訪問経験の職員間での共有方法を検討していく。 学校・園での環境、状況評価のチェック項目など具体的に共有します。
2	訪問での支援内容が、訪問している個人に委ねられている感が強い	担当者が一人で訪問することがほとんどである	依頼内容によっては、児発管の動向や指導的立場の職員の動向を検討する
3			